

令和6年度 いのちの授業 事例集（高校）【国語】

掲載数

11

管轄	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 神奈川県	高 3	国語	夏目漱石『こころ』	夏目漱石『こころ』を題材とし、「人の命や尊厳を守る」という視点から人権について考えた。「『私（先生）』がどのような発言や行動をすれば『K』の命を守ることができたか、ゲートキーパー（命の門番）の視点から考える」という課題について個人で考えをまとめた後、グループおよびクラス全体で意見を共有し、自身の考えを深めた。その結果、課題への取組を通して、人権的視点から作品の読解ができた。また、グループワーク時の決まり事や役割分担を明示したことで、生徒がお互いを尊重しながら学習に取り組む環境を作ることができた。	3 学年
2 神奈川県	高複合	国語	多文化・共生のジレンマ	「論理国語」の授業において【国際社会を考える】の単元で「南の貧困/北の貧困」という教材を取り上げた。様々な背景を持つ共同体の解体が、豊かさに影響するという内容を読み取った。「貧困」の定義やそのために起こるだろう問題について、さらに理解を深めるため、「ひょうたん島問題」というシミュレーション教材を用いて、それぞれが異なる背景を持つ民族になりきり、シナリオディベートを行った。豊かさや貧困、多文化社会における他者の尊重の重要性など、体験型の授業を通じて、共生の大切さに気付くことができた。	
3 神奈川県	高 3	国語	ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 （「殉死」とは～Kの自殺から考える）	作品の舞台となる明治時代と現代のものの考え方の違いについて映像資料等を用いながら理解を深めてきた。物語が展開していくにつれ、生徒も「私」と「K」の心理について自分なりの考え、解釈、考察を行うようになっていった。「K」が自殺をする場面、遺書を書いている「私（先生）」が乃木大将の殉死を受けて「明治の精神に殉死するつもり」で自殺したことについて、それぞれ「命をかけること」について生徒は考える機会を持った。	国語科教員 3 年 文学国語の授業
4 神奈川県	高 1	国語	いのちのはかなさを考える	夏目漱石『夢十夜』の中に登場する「女」の描写をもとに、いのちのはかなさについて学習をした。生きている時点での「女」は色鮮やかな描写がなされており、とても死ぬとは思えない。「女」の死についてグループワークをする中で、「いのちのはかなさ」「いのちの大切さ」といったワードが多く登場し、考えを深めることができた。	「言語文化」の中で実施。 教材は、夏目漱石『夢十夜』の第一夜。
5 神奈川県	高 1	国語	「羅生門」芥川龍之介	社会環境により経済的な困窮と生命の危機にさらされた主人公の行動や心情、社会的背景について読み深めさせた。作品の舞台となる時代と現在の環境や制度、倫理観の異なりをふまえつつ、自分の命を守ること、自他の生命を共存させることとはどういうことかを考える基盤をつくった。また、生命の危機は個人の事情だけが原因なのではなく、経済的・社会的な要因も含まれているということを気付かせるきっかけを与えた。	本校所属の教諭による授業 （参考資料） ・教科書

6	神奈川県	高 2	国語	SNSの使い方	教科書の「ドローン兵器とSNS」を読み、離れた安全地帯から、大勢で誰かを攻撃して命を奪うことの卑怯さについて考えた。生徒は自分の経験を振り返り、SNSは便利なツールだが、「思考をなおざりにしない」ことを意識する必要性があると認識し、意見を共有した。	探求 論理国語 (桐原書店)
7	神奈川県	高 1	国語	小説「羅生門」登場人物の心理を読み取り、人間の生死について考える	小説「羅生門」を通読後、下人や老婆の心理を読み取ることを通して人間の生死について考えさせた。教師側が物語について説明するのではなく、個人またはグループで羅生門とはどのような物語なのかということについて考え、討論する機会を設けた。下人の立場や老婆の立場、時代背景さらには現代社会との比較をすることで、様々な境遇において「生きる」とは何なのかということについて考えることができた。授業の最後に提出させたレポートを確認したところ、「いのち」の大切さに気付く生徒が大半を占めた。	
8	神奈川県	高 3	国語	小説『高瀬舟』『こころ』	文学国語の授業の中で、森鷗外『高瀬舟』、夏目漱石『こころ』を扱った。登場人物が自ら命を絶つことになる描写を含む作品であるが、自殺者が増加していると言われる現代社会であるからこそ、こうした文学作品を通じて、登場人物の心理を考察し、生きるということについて改めて考えていくことに意義があると思われる。これらの作品を通じて、尊厳死の問題や、生きることの意味などについて深く考えることができた。	
9	神奈川県	高 3	国語	夏目漱石の『こころ』を通して「人が生きる意味」について考える	「先生」の死をどうとらえるか。単に「自殺」という事実注目するだけではなく、「先生」の生き方をたどることで、人が生きる意味や他者とのつながりの大切さに気づき、自分の想いを伝えることがいのちを支える力になるという視点を持たせることで、「いのち」に対する考えを深めた。	第一学習社『高等学校標準文学国語』
10	神奈川県	高 2	国語	大田昌秀 作「血であがなったもの」	修学旅行での長崎平和学習を受けて実施。沖縄戦争を通して、「二度と失ってはならないもの」について考える授業を行った。戦争の悲惨さを学ぶとともに、戦争を通して失ったものについて考えた。また、平和な生活の尊さについて考え、平和な生活をつないでいくという事について考えさせた。	授業内。科目担当者により実施。
11	神奈川県	高 2	国語	太平洋戦争について	2 学年「言語文化」の授業内で、『沖縄の手記から』を読み、太平洋戦争について考えた。。生徒たちに、太平洋戦争に参加した日本兵の気持ちを考えさせ、その中から命の尊さや家族などの関係者の心情などを考察させた。授業の感想等をワークシートに記入することで、生徒自身の考えをまとめた。	数件出版 『新編 言語文化』